

道徳の勉強会報告 3

2014.7.14

愛知教育大学教授 鈴木健二先生を招いて学んだこと

テーマ	子どもの心に響く道徳授業のあり方
-----	------------------

1 教師の知的好奇心が道徳授業の基盤となる

道徳といえども子どもの心に響くためには、自分の心に響かなければならない。自分の心に響いて、そして子どもに伝えようと思わなければならない。そのためには、教師自身がまずアンテナを高くすべきである。世間のさまざまなニュースや何気ない生活の一場面にも何か心に引っかかりがあった場合、感動した場合、子どもに伝えるとよいなと感じた場合、それをメモしたり、写真に撮ったりする とよい。言い換えれば、教師の知的好奇心が道徳における基盤となるのである。

2 どんなところに道徳の素材が転がっているか

本、チラシ、テレビ、機内誌、新聞、学校の廊下、子どもの姿、映画、ラジオ、雑誌、絵本、ポスターなど。他にもまだまだある。

3 どのように集め、使うのか

(1) テレビのワンシーン…

録画したものを編集して、教材化する。

- ・静止画としてパワーポイントで編集して、示したいところを隠して考えさせる。
- ・ある一場面だけを見せる。

(2) 旅行先で発見したもの…

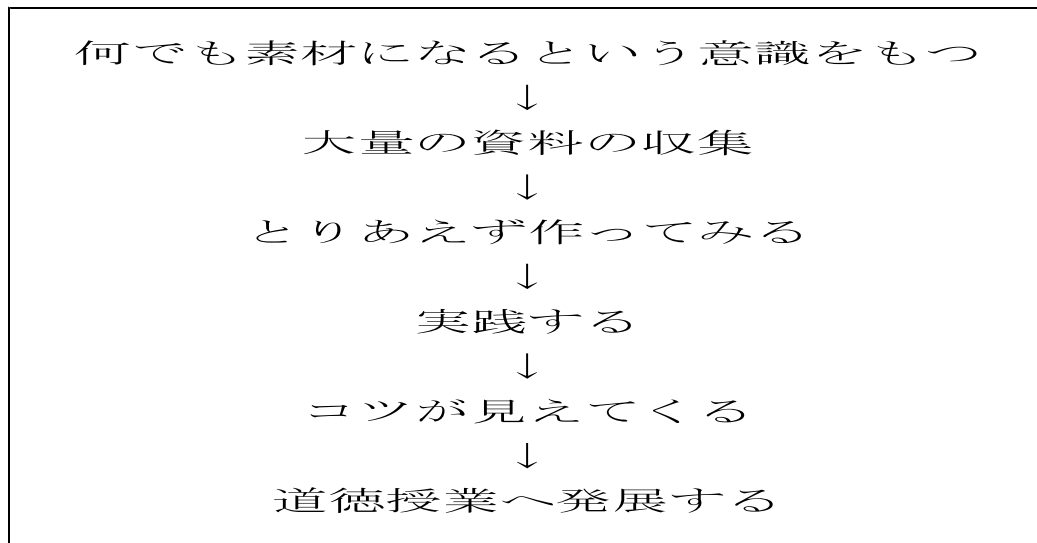
写真としてパソコンに取り込んで教材化する。

- ・大切な部分を隠す。
- ・格言などは、よく銅像の横にあるが、それをわざと一部分隠して示し、何が書かれてあるか考えさせる。その後、いろいろな格言を子どもに調べさせたり、自作の格言を考えさせたりできる。

(3) 新聞のコラム

- ・一部分を見せたり、隠したりして使ってもよいし、ある部分のところをみんなで考えさせてもよい。

4 素材（道德の授業に使うために集めた材料）に対する意識



5 教職員で素材を共有しよう！

素材をもとに小さな道德授業を作ったら、それを少しずつ増やしていこう！朝の会や学年集会や全校朝礼での話など5分から10分ぐらいの短い授業でもよい。それを一人でしまっておかずに、みんなで共有しよう。パソコン内の共有フォルダーにどんどん保存していこう。そうすることで、たくさんの短い道德の授業が短時間で集まり、それを今度は、別の先生が自分なりにアレンジして使っていける。